

平成28年度 第2回函館市福祉政策推進会議 会議概要

■日 時

平成28年11月16日（水） 午後5時00分～6時31分

■場 所

株式会社中合棒二森屋店 アネックス館6階

■協議事項

- 1 「ふらっと Daimon 運営事業」について

■会議資料

- 1 ふらっと Daimon 運営事業説明資料
- 2 ふらっと Daimon ポスター
- 3 ふらっと Daimon 事業内容及び実績と今後の課題について（当日配布）
- 4 利用実績（当日配布）

■出席委員（6名 ※欠席委員なし）

池田委員，大橋委員，齋藤委員，相馬委員，野村委員，山田委員

■事務局職員

- ・保健福祉部 藤田部長，大泉次長
地域福祉課 桐澤課長，金指主査，畠山主査

■関係機関（事業受託者）

株式会社メディカルシャトー 藤原マネジャー
ライフプレステージ白ゆり美原 越尾施設長

■傍 聴

なし

■報 道

2社（北海道新聞社・函館新聞社）

■会議要旨

- 1 開会
- 2 協議事項
- 3 その他

事務局（金指主査）

皆様に施設をご覧いただいたところで、保健福祉部長の藤田のから一言ご挨拶を申し上げます。

— 藤田保健福祉部長 挨拶 —

事務局（金指主査）

ふらっと Daimon 運営事業受託者である、株式会社メディカルシャトーからも出席いただいているので、紹介させていただく。

— 事業受託者 紹介 —

池田座長

ふらっと Daimon の運営事業について、事務局から説明をお願いします。

事務局（桐澤課長）

オープンはしたが、その後の進捗状況等々ある。

今後について、メディカルシャトーから詳しい説明をお願いしたい。

ここは、公の施設、指定管理者ではなく、あくまでも市の委託事業ということで展開している。

事業受託者（藤原マネジャー）

パワーポイントのスライドに従い、説明をさせていただく。

「事業内容および実績と今後の課題」ということで、ご報告させていただく。

— 資料の説明 —

野村委員

可能性がたくさんある事業だと思うが、これまでの一か月間の中から見つけ出した課題について、三点ほど質問したい。

一つは、色々な事業にこれから取り組んでいくと思うが、各種講座は事業受託者の自主事業、直接主催事業として企画してやられているのか。

事業受託者（藤原マネジャー）

はい。

野村委員

この各種講座の選定は、事業受託者で企画会議を経て、打ち出していくのか。

事業受託者（藤原マネジャー）

こちらで企画をして、棒二森屋さん、函館市さんに確認が必要なこともあるので、まず形を作

り、色々な角度で確認作業をさせてもらっている。

野村委員

各種講座については、今後メニューが増えていく可能性はあるのか。

事業受託者（藤原マネジャー）

はい。

野村委員

二点目は、商業施設の一角にオープンしているが、来店者に対してのアネックスさんとの相乗作用は、この一か月間で見えてきているのか、売り出していく手立てを考えているのか。

事業受託者（藤原マネジャー）

まだ一か月で、実感まではいかないが、「久々に来た」という来店者の声は結構ある。

クリスマスイベントなどをタイアップし、来店者が他のテナントにも行くような、ふらっと Daimon 発信にしていけるイベントを多く実施したい、というお話を棒二さん側からいただいている。

野村委員

オープンにあたり、先進地視察などで研究されてきたのか、一般の商業施設や公共施設の中にこのような事業を組み込むというのは、各地で展開されていると思うが、施設参観等で参考にされたところはあるか。

事業受託者（藤原マネジャー）

今やっていることのモデルは特にない。

ただ、この一か月間で色々な助言、意見いただいて、今日発表した内容が見えてきている状況なので、類似の事業をやっているところを探し、いずれは視察に行けるようにしなければならないと思っている。

齋藤委員

感想と質問を、一括してさせていただきたい。

一つは、当初の想定より、食事や運搬が充実した形で展開されていて、お客様の入りにも、いい意味で影響していることが、大変良かった。

二つ目に、一般講座や自主事業のイベントを、いかに魅力的にしていくか、それにより、来店のきっかけが生まれて、出会いが生まれる。

走り出しの部分では、いくつかイベントを打ちながら、良好な接触の機会を作っていくことが重要である。

一般講座、イベントの企画は、当面、より一層の充実が求められると思う。

棒二さんという立地もあるので、棒二さんに入っているテナント、売り場との連携の中で、例

えば手芸や喫茶のコーヒーの淹れ方講座など、各店舗との連携や交流によって、こちら側も安価で、あるいは無料でノウハウやコンテンツを提供していただき、来店者がそちらの店舗にも寄りたくなるウィンウィンの関係性も、この立地とこの環境だったらできる一つの特徴なので、それらも含めた一般講座の充実を期待したいと思う。

それから三つ目、ここの特徴からいうと、今すぐではないが、次のキーワードは多様性と思っている。

地域の公民館や地域の活動拠点の中では得られない魅力の一つは、多様な人と出会える、関わるということではないか。

最初のうちは高齢者だけ、内輪だけでもいいが、ここに来ると、子どもたち、変わった人たちとも出会うことができ、学生も出入りしている、観光客の方とも親しく話せる、という将来的な展望が見られ、それがここの魅力になってくると、多様性も中期的にはポイントになると思う。

二つ質問させていただきたい。

一つは、一般講座で健康体操というのがあり、白ゆりさんの面白いコンテンツだと前評判を伺っていたが、人数的に伸びていないのは、何かあったのか、有料なのかを素朴に伺いたい。

二つ目は、イベントの無い日の入場者数が40～60人ということは、そこそこだと思う。

合格点と言うと恐縮だが、いい数字だと思っている。

何もなくて40～60人というのは、ここの立地によるものだと思う。

これからどこを狙っていくか、漠然としているが、もう少しイベントを企画しながら何かをやっているのか、または本当に何もなくて入場者数を増やしていく感じを狙っていくのか、という展望をお聞かせ願いたい。

事業受託者（藤原マネジャー）

健康体操の人数が伸びない理由だが、告知が驚くほどできていない。

イベントとしては、企画を立ち上げ、その日が来たら、一般講座や高齢者大学が開催されるが、当然準備をしているので黙っていても開催はされる。

ただ、集客をするための広告、周知については、時間がギリギリすぎて振興組合さんに情報提供ができず、町会さんの回覧板に入れるタイミングも逸してしまってる。

今の段階では、棒二さんの中にポスターをたくさん貼らせてもらい、棒二さんのダイレクトメールの中に入れ込みをさせてもらっているが、広告発信の自己評価は、30点ぐらいというのが正直なところ。

告知ができていない状況なので、目標は、きちんとした広告をわかりやすく打ち出して、外部に効果的にスピード感を持って発信する、そこを一回通すと突き抜けられると感じている。

ここの通路の壁にも、ふらっと Daimon の中の平面図を大きくしたものを貼って、各セクションに名前を付け、中身の説明をパネルで掲示とっており、ここまで着ければ、そこで情報を得て、ちゃんと中に入っていける仕掛けをしようと思う。

今、ふらっと Daimon のパンフレットがないので、至急作成して隅々まで発信しようと思っている。

講座についても同様に考えている。

池田座長

例えば、新聞社へイベント案内の FAX を流し、掲載されれば、ここの場所を宣伝してくれる記事になると思う。

私はいつも、そのようにして生徒を取り上げてもらっている。

年間のスケジュールを決めて函館市の広報誌にも掲載されれば、市民が知ってくれるのではないかな。

先ほどからの話を聞いていると、広報が一番下手、もっと宣伝するべきと思う。

相馬委員

カフェとショップは以前の場所の時、お客さんがいなかった。

ここのような、人目に触れる場所にあるというのは、とてもいいことであり、大変喜んでいる。

山田委員

白ゆりさんが受託ということで、高齢者に対して力が入っていると思う。

どこを目指すかについては私も考えており、場所がいいので、40代、50代くらいの女性にとっては、買い物ができて、ちょっとした講座があるということが、すごく魅力的だと思う。

高齢者に限らず、親の介護をやっている人は多く、そういう方々には最初からケアマネや相談というのではなく、来店のきっかけがあれば、もっと広がっていくのではないかなと思うので、それをお願いしたい。

池田座長

高齢者以外来てはダメではなくて、ふらっと立ち寄ればいいのでは。

山田委員

健康体操とか、白ゆりさんのイメージが高齢者につながっている。

事業受託者（藤原マネジャー）

若い方向けの体操もできるので、それも含めて検討したい。

大橋委員

まず、事業受託者の責任ではないところで色々苦勞されていると思う。

ここで、どこか一角だけでも上まで囲える場所を作って、面談スペースみたいなものを作れないものかな。

一か所だけでもあれば、色々な団体が使うことができる

ここに座っているせいかもしれないが、上のゲームセンターの音が結構うるさく感じる。

ここ以外の高齢者大学でも、うるさい、声が聞こえにくい、マイクのハウリングがうるさい、などの苦情は来るもので、ここも色々言われているだろうという気はしている。

ゲームセンターだから、仕方がないのかもしれないが、もう少し何とかならないのかという気がした。

棒二森屋の入り口に、案内板があるが、ふらっと Daimon は小さく貼ってあるだけである。

もう少し、高齢者向けに見やすく、わかりやすい表示にしてもらえないか、ということも事業受託者の頑張りではなく、函館市側で言うことができないのか。

PR については「市政はこだて」に掲載すると本当に違う。

高齢者は「市政はこだて」や新聞をよく見ているので、掲載すると「それを見て来ました。」という方がいらっしゃる。

それと、教育委員会で実施している「まなびっと」という生涯学習システムがあり、認定印をもらうために色んな生涯学習講座を受講する高齢者の方がいらっしゃるのです、ここも申請されたら、そのような方に来ていただけるようになるのかという気がする。

その辺は事業受託者ばかりではなく、立ち上げの時期なので、函館市側も色々応援していただけたらありがたい。

あと、高齢者大学の受講者が社会貢献する側に回るというのは、それなりの仕掛けが必要だと思う。

高齢者大学は、サークル活動を支援されているところが多い。

受託事業者が一般講座を開講するものいいが、クラブみたいなものを高齢者大学の中で作り、クラブ活動に場所を貸す、会報発行にはお手伝いをする、などサークル活動、グループ活動を高齢者大学で応援していただけたらいいと思う。

葛屋は、本当にイベントのたびにじっくり相談に乗ってくれる。

集客方法、おしゃれに続けていける手法など、本当に地域活動を作るように何でも相談に乗ってくれる。

ここが、葛屋のように色々なイベントを通じて地域活動を育成していくようなところになってくれたらいいと思う。

もう一つ、北斗市に地域食堂をやっている特別養護老人ホームがあるので、視察に行かれたらいいと思う。

社会福祉法人で、ソーシャルワーカーが専属スタッフとしてコーヒーを淹れるなどして地域食堂をやっている。

厨房でご飯作っている方々は地域のボランティアのおばちゃんたちで、近所の人々が、野菜を販売したり、自分たちで作った手芸の用品を持ってきて販売している。

地域の人たちと一緒に作り上げる、ということを手を上げてあげられている。

野村委員

二点ほど提案です。

高齢者の施設ということでスタートしているが、世代間の交流や多様な利用ということがとても大事ではないかと思う。

その意味では、建物は離れているが、キラリスのキッズプラザとの連携ができると、とても広がりが出てくるのではないかと思うが、もし、具体的な展望があればご提案いただきたい。

子どもの関係で色々な取り組みが各地で起きているが、先進地視察への情報提供ということで、八戸市の「こどもはっち」という施設は、単に子どものためだけではなく、市街地活性化の中核的な施設として運営しているのです、子ども関連の施設との連携ということであれば参考になるの

ではないかと思う。

もう一点、私は、不登校、引きこもり関係の会をやっているが、会場は、あいよるさんを予約している。

地域の市民活動やボランティア団体で、会場確保が困難な団体がたくさんあると思うが、そのような団体に、空きスペースを有効に活用できるように情報発信を積極的にやっていただきたい。

池田座長

他に、全体を通して何か。

最後に事務局から何か。

事務局（桐澤課長）

音がうるさい、会話の音が漏れるという点については、消防法に抵触するので天井を開けなければならず、閉鎖はできない。

多様性、多世代の交流ということは歓迎する。

当初は、高齢者の憩いの場として、高齢者サロンと福祉ショップとボランティアセンターのような政策事項を一つにまとめたが、高齢者に限らなくてもよいのではないか、ということで、今は世代に捕らわれずやっている。

メニューを見てももらえればわかるが、飲み物が100円ということで、高校生のカップルも来店しており、今後、そういう使い方も増えていけばいいと思っている。

6月の末に、事業受託者が選定され、メディカルシャトーの社長が、函館市のために命をかけて頑張るということで、藤原マネジャーさんも札幌から来た。

社長の配慮もあり、全社員の中で一番接遇、礼儀にしっかりした職員をここに配置してもらっているので今後も十分期待している。

池田座長

受付の女の子は、笑顔も言葉がけも良く、すごいと思った。

藤原マネジャーの説明も良く、今後は企画などを頑張ってもらいたい。

予定の時間を過ぎたので、今日は以上で終わりとするが、次回開催は、どのようになっているか。

事務局（桐澤課長）

次回は、まだ未定なので後日連絡をさせていただく。

2月中旬くらいを予定しているので、よろしくお願ひしたい。

池田座長

以上で、今日の会議は終了する。